

【公報種別】特許法第 17 条の 2 の規定による補正の掲載

【部門区分】第 6 部門第 3 区分

【発行日】平成28年2月12日 (2016.2.12)

【公開番号】特開2015-36836(P2015-36836A)

【公開日】平成27年2月23日 (2015.2.23)

【年通号数】公開・登録公報2015-012

【出願番号】特願2013-167485(P2013-167485)

【国際特許分類】

G 0 6 F 3/048 (2013.01)

G 0 6 F 13/00 (2006.01)

G 0 6 Q 50/10 (2012.01)

【F I】

G 0 6 F 3/048 6 5 4 C

G 0 6 F 13/00 5 6 0 A

G 0 6 Q 50/10

【手続補正書】

【提出日】平成27年12月18日 (2015.12.18)

【手続補正 1】

【補正対象書類名】特許請求の範囲

【補正対象項目名】全文

【補正方法】変更

【補正の内容】

【特許請求の範囲】

【請求項 1】

第 1 のユーザの行動の結果として生成される第 1 の情報を取得する機能と、
前記第 1 の情報に基づいて、前記第 1 のユーザの行動についてのコメントリーを生成する機能と、
前記コメントリーを含む第 2 の情報を前記第 1 のユーザとは異なる第 2 のユーザに公開するために出力する機能と
を実現するように構成されるプロセッサを備える情報処理装置。

【請求項 2】

前記コメントリーは、叙述的な第 1 の部分と、論評的な第 2 の部分とを含む、請求項 1 に記載の情報処理装置。

【請求項 3】

前記コメントリーにおいて、前記第 1 の部分と前記第 2 の部分とによってダイアログが構成される、請求項 2 に記載の情報処理装置。

【請求項 4】

前記コメントリーは、テキストコメントリーであり、
前記第 2 の情報は、前記第 1 の部分および前記第 2 の部分を、それぞれの仮想的な話者に関連付けて配置した画像を含む、請求項 3 に記載の情報処理装置。

【請求項 5】

前記プロセッサは、さらに、所定の時間に生成された複数の前記コメントリーに対応する前記画像を時系列で配列して動画像を生成する機能を実現するように構成される、請求項 4 に記載の情報処理装置。

【請求項 6】

前記コメントリーは、前記第 1 のユーザの現在地の情報を含む、請求項 1 ~ 5 のいずれか 1 項に記載の情報処理装置。

【請求項 7】

前記プロセッサは、さらに、所定の時間に生成された複数の前記コメントリーに含まれる情報を集約して表現する画像を生成する機能を実現するように構成される、請求項 1 に記載の情報処理装置。

【請求項 8】

前記画像において、前記複数のコメントリーの生成時の前記第 1 のユーザの位置情報は現実のまたは仮想的なマップ上に表現される、請求項 7 に記載の情報処理装置。

【請求項 9】

前記仮想的なマップは、現実のマップにおける位置関係の少なくとも一部を捨象することによって生成される、請求項 8 に記載の情報処理装置。

【請求項 10】

前記第 1 の情報は、前記第 1 のユーザの行動認識結果を含む、請求項 1 ~ 9 のいずれか 1 項に記載の情報処理装置。

【請求項 11】

前記コメントリーは、前記行動認識結果によって示される前記第 1 のユーザの行動が変化した場合に生成される、請求項 10 に記載の情報処理装置。

【請求項 12】

前記コメントリーは、前記行動認識結果が事後的に修正された場合に生成される、請求項 11 に記載の情報処理装置。

【請求項 13】

前記コメントリーは、前記行動認識結果によって示される前記第 1 のユーザの行動が所定の時間を超えて継続されている場合に生成される、請求項 10 ~ 12 のいずれか 1 項に記載の情報処理装置。

【請求項 14】

前記コメントリーは、前記行動認識結果によって示される前記第 1 のユーザの行動が所定のパターンに合致した場合に生成される、請求項 10 ~ 13 のいずれか 1 項に記載の情報処理装置。

【請求項 15】

前記コメントリーは、前記行動認識結果によって示される前記第 1 のユーザの行動の程度を示す文言を含む、請求項 10 ~ 14 のいずれか 1 項に記載の情報処理装置。

【請求項 16】

前記第 1 の情報は、前記第 1 のユーザがネットワーク上に投稿したテキストまたは画像を含む、請求項 1 ~ 15 のいずれか 1 項に記載の情報処理装置。

【請求項 17】

前記コメントリーは、さらに、前記第 1 のユーザの行動の履歴に基づいて生成される、請求項 1 ~ 16 のいずれか 1 項に記載の情報処理装置。

【請求項 18】

プロセッサが、

第 1 のユーザの行動の結果として生成される第 1 の情報を取得することと、

前記第 1 の情報に基づいて、前記第 1 のユーザの行動についてのコメントリーを生成することと、

前記コメントリーを含む第 2 の情報を前記第 1 のユーザとは異なる第 2 のユーザに公開するために出力することと

を含む情報処理方法。

【請求項 19】

第 1 のユーザの行動の結果として生成される第 1 の情報を取得する機能と、

前記第 1 の情報に基づいて、前記第 1 のユーザの行動についてのコメントリーを生成する機能と、

前記コメントリーを含む第 2 の情報を前記第 1 のユーザとは異なる第 2 のユーザに公開するために出力する機能と

をコンピュータに実現させるためのプログラム。

【手続補正 2】**【補正対象書類名】明細書****【補正対象項目名】0012****【補正方法】変更****【補正の内容】****【0012】**

なお、説明は以下の順序で行うものとする。

1. システム構成
2. 機能構成
3. 行動共有の画面表示例
 - 3-1. リスト表示画面
 - 3-2. 仮想空間表示画面
 - 3-3. 個別情報画面
4. 行動認識に基づくコメンタリー
 - 4-1. コメンタリーの表示例
 - 4-2. 叙述的コメンタリーの構成例
 - 4-3. 論評的コメンタリーの構成例
5. 投稿に基づくコメンタリー
 - 5-1. コメンタリーの表示例
6. コメンタリーのまとめ表現
7. コメンタリー開始および終了時の操作
8. ハードウェア構成
9. 補足

【手続補正 3】**【補正対象書類名】明細書****【補正対象項目名】0035****【補正方法】変更****【補正の内容】****【0035】**

また、画像生成機能450は、所定の時間にコメンタリー生成機能430によって生成された複数のコメンタリーをまとめて表現する画像を生成してもよい。この場合、生成される画像は、動画画像であってもよい。このようなまとめ画像は、例えばコメンタリー生成機能430が動作する所定の時間の終了時に生成されうる。つまり、まとめ画像は、ユーザ操作によって指定されたコメンタリーの終了時点や、タイマーによって指定されたコメンタリーの終了時点で生成されうる。あるいは、まとめ画像は、コメンタリーの途中で、所定の時間（例えば3時間など）ごとに生成されうる。また、まとめ画像のより具体的な例についても後述する。

【手続補正 4】**【補正対象書類名】明細書****【補正対象項目名】0059****【補正方法】変更****【補正の内容】****【0059】**

（3-3. 個別情報画面）

図6は、本開示の一実施形態における投稿履歴画面の例を示す図である。図6を参照すると、クライアント装置100のディスプレイに表示される投稿履歴画面1300には、ユーザ情報1301、行動ステータス1303、ユーザオブジェクト1305、投稿メッセージ1307、行動アイコン1309、まとめボタン1311、および投稿履歴ボタン1313が含まれる。

【手続補正 5】

【補正対象書類名】明細書

【補正対象項目名】0 1 1 4

【補正方法】変更

【補正の内容】

【0 1 1 4】

(画像の第 3 の例)

図 1 2 は、本開示の一実施形態において表示されるコメントリーまとめ画像の第 3 の例を示す図である。図 1 2 を参照すると、まとめ画像 2 5 0 0 には、マップ 2 5 0 1、ポイント表示 2 5 0 3、ルート表示 2 5 0 5、時刻アイコン 2 4 0 7、および行動アイコン 2 5 0 9 が含まれる。

【手続補正 6】

【補正対象書類名】明細書

【補正対象項目名】0 1 1 6

【補正方法】変更

【補正の内容】

【0 1 1 6】

このように現実の位置情報を捨象する効果として、マップ 2 5 0 1 では、例えばルート表示 2 5 0 5 を、それぞれの移動経路が十分に認識されるような長さで表現することが可能である。例えば、図示された例におけるルート表示 2 5 0 5 のうち、ルート表示 2 5 0 5 a は徒歩に対応するルート表示であり、ルート表示 2 5 0 5 b は電車の乗車に対応するルート表示である。これらのルート表示が現実の位置情報に従って表示されると、ルート表示 2 5 0 5 a がルート表示 2 5 0 5 b に比べて短くなり、場合によってはルート表示 2 5 0 5 a を認識することが困難になる（徒歩による移動速度よりも電車による移動速度の方がはるかに大きいため）。そこで、マップ 2 5 0 1 に示された例のように現実の位置情報からある程度自由にポイント表示 2 5 0 3 およびルート表示 2 5 0 5 を配置できれば、ユーザのそれぞれの行動に対応したルート表示 2 5 0 5 を認識することが容易になりうる。

。